



春 議 発 第 3 7 1 号

令 和 6 年 1 0 月 4 日

埼玉県議会
東武アーバンパークライン
利便性向上促進議員連盟
会長 小島信昭 様

春日部市議会議長 小久保博史



令和 7 年度埼玉県予算等に対する要望について

秋冷の候、貴職におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素より、本市の施策の推進に対し、格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、春日部市議会では、本市の中心市街地まちづくりにとって極めて整備効果の高い春日部駅周辺中心市街地整備の円滑な事業推進に向けて、中心市街地まちづくり検討特別委員会を組織し検討を行っております。

つきましては、令和 7 年度埼玉県予算に、本市の要望を反映させていただきたく、貴連盟にお力添えをお願いしたいと存じます。

お忙しいところ誠に恐縮でございますが、特段のご高配、ご尽力を賜りたくお願い申し上げます。

令和7年度埼玉県予算に対する要望

(件名) 春日部駅周辺中心市街地整備の推進について
(春日部駅付近連続立体交差事業・市街地再開発事業・街路整備事業)

(要望理由)

春日部市は、都心から35キロメートル圏、埼玉県の一部に位置し、首都圏における交通の要衝となっています。

特に、春日部駅は、東武スカイツリーライン（伊勢崎線）と東武アーバンパークライン（野田線）が結節し、コロナ禍前においては1日に約7万人が乗り降りする重要な駅であります。

この利便性が春日部駅周辺市街地の形成に大きく貢献する一方、鉄道が中心市街地を分断しているまちの構造は、円滑な道路交通の阻害や環境の悪化を招くとともに、商業・業務活動の活性化に多大な支障をきたしております。

また、お年寄りや車椅子の方またはベビーカーを押している方などにとって、現在の踏切や線路下の地下道は、中心市街地の東西を安全に往来できるものではありません。

こうした中、春日部駅付近連続立体交差事業の事業主体であります埼玉県におかれましては、令和2年度から事業に着手いただき、現在、用地取得等が進められております。

本年5月には伊勢崎線仮上り線・仮上りホームが完成し、目に見える形で事業の進捗が実感できるようになってきたところです。

また、春日部市では、中心市街地の賑わいや新たな価値を創出するなど、魅力ある中心市街地の形成に向け、連続立体交差事業と一体となったまちづくりや市街地再開発事業の検討、環状道路の整備を進めております。

つきましては、春日部駅付近連続立体交差事業の早期完成、市街地再開発事業や都市計画道路袋陣屋線を始めとする街路整備事業等の推進について切に要望いたします。